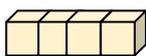


「4」の壁 「三つ」または「3個」まではパッと見て分かるので、習得に大きな問題はありません。ところが、4以上（たった一つ増えただけで）パッと見ただけでは何個あるか分からず、一つずつ目で追って確かめる＝数えるという作業が必要になります。その作業を積み木で遊びにします。

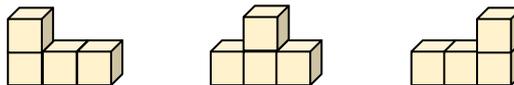
- ①まず、立方体の積み木を6～7個用意してください。積み木の色は、一色に統一します。
- ②次に、「積み木4個でいろいろな形を作りましょう。お母さんはこんなのを作ります。」と言いながら4個で積む見本を見せます。
- ③積んだら「1個、2個、3個、4個。」と言って積み木を数えながら「4個」あることを確認させます。これを親子で交互に進めていきます。

6～7個ある積み木の山から4個取り出して積むこと、積んだ後で数えて確かめること。この繰り返しで「4個」という場面に慣れていきます。時には間違えて、積み木を多く使ってしまうことがあるかもしれませんが、間違いは4個を意識づける良い機会にもなります。

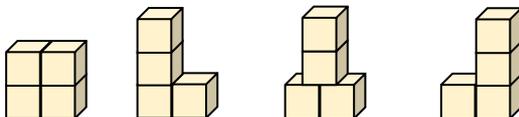
①横並び



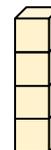
②下2個・上1個のパターン



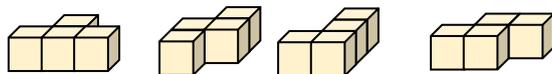
③下2個・上2個のパターン



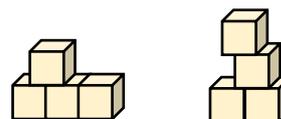
④縦並び



この9パターンが基本ですが、これを寝かせることで、さらにパターンを増やせます。



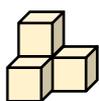
積み木をずらすことで、さらに数は増やせます。



4個の積み木で、これだけ遊べれば（並べる経験を積みば）、視覚と触覚の両方で「4」という数に慣れてきます。

② 4個・5個に慣れる積み木遊び

①は並べ方のバリエーションを競う遊びですが、②は何個あるかを当てる遊びです。



「3個かな、4個かな、5個かな。」と言って何個あるか当てさせます。積み木に隠れている立方体もあるので、当てられなくても構いません。（これを見ただけで当てるのは小学校受験レベルの問題です。）

間違ってもよいので子どもが答えたら、分解して並べ、1個ずつ数え、「後ろにも隠れていた！」などと言いながら、4個あることを確かめます。よく見ずに4個と答えていたら、時々、5個並べて数えさせましょう。